



## アカウントを管理します Astra Control Center

NetApp  
November 21, 2023

# 目次

アカウントを管理します .....	1
ユーザを管理します .....	1
ロールの管理 .....	4
通知を表示および管理します .....	5
クレデンシャルを追加および削除します .....	6
アカウントのアクティビティを監視 .....	6
既存のライセンスを更新する .....	7
リポジトリ接続を管理します .....	8
ソフトウェアパッケージを管理します .....	10

# アカウントを管理します

## ユーザを管理します

Astra Control UI を使用して、Astra Control Center インストールのユーザーを招待、追加、削除、および編集できます。Astra Control UI またはを使用できます ["Astra Control API"](#) ユーザを管理するには、を実行

LDAPを使用して、選択したユーザの認証を実行することもできます。

### LDAP を使用する

LDAPは、分散ディレクトリ情報にアクセスするための業界標準プロトコルであり、エンタープライズ認証に広く使用されています。Astra Control CenterをLDAPサーバーに接続して、選択したAstraユーザーの認証を実行できます。大まかには、AstraとLDAPを統合し、AstraのユーザとグループをLDAPの定義に対応して定義します。を参照してください ["LDAP 認証"](#) を参照してください。

### ユーザーを招待します

アカウント所有者と管理者は、Astra Control Center に新しいユーザを招待できます。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. **[Users]** タブを選択します。
3. **[\* ユーザーの招待 \*]** を選択します。
4. ユーザの名前と E メールアドレスを入力します。
5. 適切なシステム権限を持つユーザロールを選択します。

各ロールには次の権限があります。

- **\* Viewer \*** はリソースを表示できます。
  - **メンバー \*** には、ビューア・ロールの権限があり、アプリとクラスタの管理、アプリの管理解除、スナップショットとバックアップの削除ができます。
  - **Admin** にはメンバーの役割権限があり、Owner 以外の他のユーザーを追加および削除できます。
  - **\* Owner \*** には Admin ロールの権限があり、任意のユーザーアカウントを追加および削除できます。
6. メンバーロールまたはビューアロールを持つユーザーに制約を追加するには、**\* 制約へのロールの制限 \*** チェックボックスをオンにします。

制約の追加の詳細については、を参照してください ["ロールの管理"](#)。

7. **[\* ユーザーを招待する \*]** を選択します。

ユーザーは、Astra Control Center に招待されたことを通知する電子メールを受信します。このメールには一時的なパスワードが含まれています。このパスワードは初回ログイン時に変更する必要があります。

## ユーザを追加します

アカウント所有者と管理者は、Astra Control Center のインストールにさらにユーザーを追加できます。

### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. **[Users]** タブを選択します。
3. **[ユーザーの追加]** を選択します。
4. ユーザ名、E メールアドレス、および一時パスワードを入力します。

ユーザは初回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。

5. 適切なシステム権限を持つユーザロールを選択します。

各ロールには次の権限があります。

- \* Viewer \* はリソースを表示できます。
  - メンバー \* には、ビューア・ロールの権限があり、アプリとクラスタの管理、アプリの管理解除、スナップショットとバックアップの削除ができます。
  - **Admin** にはメンバーの役割権限があり、Owner 以外の他のユーザーを追加および削除できます。
  - \* Owner \* には Admin ロールの権限があり、任意のユーザーアカウントを追加および削除できます。
6. メンバーロールまたはビューアロールを持つユーザーに制約を追加するには、\* 制約へのロールの制限 \* チェックボックスをオンにします。

制約の追加の詳細については、を参照してください "[ロールの管理](#)"。

7. 「\* 追加」を選択します。

## パスワードを管理します

Astra Control Center では、ユーザーアカウントのパスワードを管理できます。

### パスワードを変更します

ユーザアカウントのパスワードはいつでも変更できます。

### 手順

1. 画面の右上にあるユーザアイコンを選択します。
2. \* プロファイル \* を選択します。
3. **[\* アクション \* (\* Actions \*)]** 列の **[オプション (Options)]** メニューから、**[\* パスワードの変更 \* (\* Change Password \*)]** を選択します
4. パスワードの要件に準拠するパスワードを入力します。
5. 確認のためパスワードをもう一度入力します。
6. 「\* パスワードの変更 \*」を選択します。

## 別のユーザのパスワードをリセットします

アカウントに Admin ロールまたは Owner ロールの権限がある場合は、自分だけでなく他のユーザアカウントのパスワードもリセットできます。パスワードをリセットする場合は、ログイン時にユーザが変更しなければならない一時パスワードを割り当てます。

### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [\* アクション \* (\* Actions \*)] ドロップダウンリストを選択します。
3. 「\* パスワードのリセット \*」を選択します。
4. パスワードの要件に適合する一時パスワードを入力します。
5. 確認のためパスワードをもう一度入力します。



次回ユーザがログインするときに、パスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。

6. 「\* パスワードのリセット \*」を選択します。

## ユーザのロールを変更します

Owner ロールのユーザはすべてのユーザのロールを変更できますが、Admin ロールのユーザは Admin、Member、Viewer のロールを持つユーザのロールを変更できます。

### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [\* アクション \* (\* Actions \*)] ドロップダウンリストを選択します。
3. [役割の編集] を選択します。
4. 新しいロールを選択します。
5. ロールに制約を適用するには、\* 制約へのロールの制限 \* チェックボックスを有効にして、リストから制約を選択します。

拘束がない場合は、拘束を追加できます。詳細については、を参照してください "[ロールの管理](#)"。

6. [\* 確認 \*] を選択します。

### 結果

Astra Control Center は、選択した新しいロールに基づいてユーザーの権限を更新します。

## ユーザを削除します

所有者ロールまたは管理者ロールを持つユーザは、いつでもそのアカウントから他のユーザを削除できます。

### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [\* ユーザー \*] タブで、削除する各ユーザーの行にあるチェックボックスをオンにします。

3. [ \* アクション \* ( \* Actions \* ) ] 列の [ オプション ( Options ) ] メニューから、[ \* ユーザー / 秒を削除 ( \* Remove user/s \* ) ] を選択する
4. プロンプトが表示されたら、「remove」という単語を入力して削除を確認し、「 \* Yes 、 Remove User \* 」を選択します。

#### 結果

Astra Control Center は、アカウントからユーザーを削除します。

## ロールの管理

ロールを管理するには、ネームスペースの制約を追加し、ユーザロールをその制約に制限します。これにより、組織内のリソースへのアクセスを制御できます。Astra Control UI またはを使用できます ["Astra Control API"](#) をクリックしてください。

### ロールに名前空間制約を追加します

Admin または Owner ユーザは、ネームスペースの制約を追加できます。

#### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「 \* アカウント \* 」を選択します。
2. **[Users]** タブを選択します。
3. [ \* アクション \* ( \* Actions \* ) ] 列で、メンバーまたはビューアーの役割を持つユーザーのメニューボタンを選択します。
4. [ 役割の編集 ] を選択します。
5. [ ロールを制約に制限する \* ] チェックボックスをオンにします。

このチェックボックスは、メンバーロールまたはビューアロールでのみ使用できます。[\*Role] ドロップダウン・リストから別のロールを選択できます

6. [ \* 制約の追加 \* ] を選択します。

使用可能な制約の一覧は、ネームスペースまたはネームスペースラベルで確認できます。

7. [ 制約タイプ \* ( Constraint type \* ) ] ドロップダウンリストで、ネームスペースの構成方法に応じて、[\* Kubernetes namespace] \* または [\* Kubernetes namespace label\* ] を選択します。
8. リストから 1 つ以上の名前空間またはラベルを選択して、それらの名前空間にロールを制限する制約を構成します。
9. [ \* 確認 \* ] を選択します。

[ 役割の編集 \* ] ページには、この役割に選択した拘束のリストが表示されます。

10. [ \* 確認 \* ] を選択します。

**[Account]** ページでは、[\*Role] 列のメンバまたはビューアの役割の制約を表示できます。



制約を追加せずに役割の制約を有効にし、\* 確認 \* を選択すると、役割には完全な制限がある  
と見なされます（役割は、名前空間に割り当てられているリソースへのアクセスを拒否されま  
す）。

## ロールから名前空間制約を削除します

管理者または所有者ユーザーは、役割から名前空間の制約を削除できます。

### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [Users] タブを選択します。
3. [\* アクション \* (\* Actions \*)] 列で、アクティブな拘束を持つメンバーまたはビューアーの役割を持つ  
ユーザーのメニューボタンを選択する。
4. [役割の編集] を選択します。
  - 役割の編集 \* (Edit role \*) ダイアログには、役割のアクティブな拘束が表示されます。
5. 削除する拘束の右側にある \* X \* を選択します。
6. [\* 確認 \*] を選択します。

を参照してください。

• ["ユーザロールとネームスペース"](#)

## 通知を表示および管理します

アクションが完了または失敗すると、Astra から通知が表示されます。たとえば、アプ  
リケーションのバックアップが正常に完了した場合に通知が表示されます。

これらの通知は、インターフェイスの右上から管理できます。



### 手順

1. 右上の未読通知の数を選択します。
2. 通知を確認し、[\* 既読としてマークする \*] または [すべての通知を表示する \*] を選択します。  
  
[すべての通知を表示する \*] を選択した場合は、[通知] ページがロードされます。
3. [\* 通知 \*] ページで、通知を表示し、既読としてマークする通知を選択し、[\* アクション \*] を選択し  
て、[\* 既読としてマークする \*] を選択します。

# クレデンシャルを追加および削除します

ONTAP S3、OpenShift で管理される Kubernetes クラスタ、未管理の Kubernetes クラスタなどのローカルプライベートクラウドプロバイダのクレデンシャルを、お客様のアカウントにいつでも追加、削除できます。Astra Control Center は、これらのクレデンシャルを使用して、クラスタ上の Kubernetes クラスタとアプリケーションを検出し、ユーザに代わってリソースをプロビジョニングします。

Astra Control Center のすべてのユーザーが同じ資格情報セットを共有することに注意してください。

## クレデンシャルを追加する

クラスターの管理時に、Astra Control Center に資格情報を追加できます。新しいクラスタを追加してクレデンシャルを追加する手順については、を参照してください ["Kubernetes クラスタを追加"](#)。



自分で作成する場合は kubeconfig ファイルには、\* 1つの\*コンテキストエレメントのみを定義する必要があります。を参照してください ["Kubernetes のドキュメント"](#) を参照してください kubeconfig ファイル。

## クレデンシャルを削除する

アカウントからのクレデンシャルの削除はいつでも実行できます。クレデンシャルは、のあとに削除してください ["関連するすべてのクラスタの管理を解除します"](#)。



Astra Control Center は、Astra Control Center の認証情報を使用してバックアップバケットに認証するため、Astra Control Center に追加する最初の資格情報セットは常に使用されています。これらのクレデンシャルは削除しないことを推奨します。

### 手順

1. 「\* アカウント \*」を選択します。
2. [\*Credentials] タブを選択します。
3. 削除するクレデンシャルの [状態 \*] 列で [オプション] メニューを選択します。
4. 「\* 削除」を選択します。
5. 削除を確認するために「削除」と入力し、「はい」、「認証情報を削除」を選択します。

### 結果

Astra Control Center は、アカウントから資格情報を削除します。

## アカウントのアクティビティを監視

Astra Control アカウントのアクティビティの詳細を表示できます。たとえば、新しいユーザを招待したとき、クラスタが追加されたとき、Snapshot が作成されたときなどです。アカウントアクティビティを CSV ファイルにエクスポートすることもできます。





KubernetesクラスタをAstra Controlから管理し、Astra ControlをCloud Insights に接続した場合、Astra ControlはCloud Insights にイベントログを送信する。ポッドの導入やPVCの添付ファイルに関する情報などのログ情報が、Astra Control Activityログに記録されます。この情報を使用して、管理しているKubernetesクラスタの問題を特定します。

#### Astra Control のアカウントアクティビティをすべて表示

1. 「\* Activity \*」を選択します。
2. フィルタを使用してアクティビティのリストを絞り込むか、検索ボックスを使用して探しているものを正確に検索します。
3. アカウントアクティビティを CSV ファイルにダウンロードするには、「\* CSV にエクスポート」を選択します。

#### 特定のアプリケーションのアカウントアクティビティを表示します

1. 「\* アプリケーション」を選択し、アプリケーションの名前を選択します。
2. 「\* Activity \*」を選択します。

#### クラスタのアカウントアクティビティを表示します

1. 「\* クラスタ」を選択し、クラスタの名前を選択します。
2. 「\* Activity \*」を選択します。

#### 対応が必要なイベントを解決するための操作を実行します

1. 「\* Activity \*」を選択します。
2. 注意が必要なイベントを選択してください。
3. **[Take action]** ドロップダウンオプションを選択します。

このリストから、実行できる対処方法のほか、問題 に関するドキュメントを参照したり、問題 の解決に役立つサポートを受けたりできます。

## 既存のライセンスを更新する

評価用ライセンスをフルライセンスに変換したり、既存の評価用ライセンスまたはフルライセンスを新しいライセンスで更新したりできます。フルライセンスがない場合は、ネットアップの営業担当者に連絡して、ライセンスとシリアル番号の全文を入手してください。Astra の UI またはを使用できます **"Astra Control API"** 既存のライセンスを更新します。

#### 手順

1. にログインします **"NetApp Support Site"**。
2. Astra Control Center のダウンロードページにアクセスし、シリアル番号を入力して、ネットアップライセンスファイル（NLF）をダウンロードする。
3. Astra Control Center UI にログインします。
4. 左側のナビゲーションから、\* アカウント \* > \* ライセンス \* を選択します。
5. **[Account>\*License\*]** ページで、既存のライセンスのステータスドロップダウンメニューを選択し、**[Replace]** を選択します。

6. ダウンロードしたライセンスファイルを参照します。

7. 「\* 追加」を選択します。

[Account>\*Licenses\*] ページには、ライセンス情報、有効期限、ライセンスシリアル番号、アカウント ID、および使用されている CPU ユニットが表示されます。

を参照してください。

- ["Astra Control Center のライセンス"](#)

## リポジトリ接続を管理します

ソフトウェアパッケージのインストールイメージやアーティファクトの参照として使用するリポジトリをAstra Controlに接続できます。ソフトウェアパッケージをインポートすると、Astra Controlは、イメージリポジトリ内のインストールイメージと、アーティファクトリポジトリ内のバイナリおよびその他のアーティファクトを参照します。

必要なもの

- Astra Control Center をインストールした Kubernetes クラスター
- アクセス可能な稼働中のDockerリポジトリ
- アクセス可能なアーティファクトリポジトリ（Artifactoryなど）が実行されている必要があります

### Dockerイメージリポジトリを接続する

Dockerイメージリポジトリを接続して、Astraデータストアなどのパッケージインストールイメージを保持できます。パッケージをインストールすると、Astra Controlはイメージリポジトリからパッケージイメージファイルをインポートします。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [接続（Connections \*）]タブを選択します。
3. 「\* Docker Image Repository \*」セクションで、右上のメニューを選択します。
4. 「\* 接続」を選択します。
5. リポジトリのURLとポートを追加します。
6. リポジトリのクレデンシャルを入力します。
7. 「\* 接続」を選択します。

結果

リポジトリが接続されました。「\* Docker Image Repository \*」セクションに、リポジトリのステータスが「Connected」になっていることを確認します。

### Dockerイメージリポジトリの接続を解除する

不要になったDockerイメージリポジトリへの接続を削除できます。

## 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [接続 (Connections \*)] タブを選択します。
3. 「\* Docker Image Repository \*」セクションで、右上のメニューを選択します。
4. 「切断」を選択します。
5. 「\* Yes、disconnect Docker image repository \*」を選択します。

## 結果

リポジトリが切断されました。「\* Docker Image Repository \*」セクションには、リポジトリのステータスが「Disconnected」になっているはずです。

## アーティファクトリポジトリを接続します

アーティファクトリポジトリをソフトウェアパッケージのバイナリなどのホストアーティファクトに接続できます。パッケージをインストールすると、Astra Controlによって、ソフトウェアパッケージのアーティファクトがイメージリポジトリからインポートされます。

## 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [接続 (Connections \*)] タブを選択します。
3. [アーティファクトリポジトリ\*]セクションで'右上のメニューを選択します
4. 「\* 接続」を選択します。
5. リポジトリのURLとポートを追加します。
6. 認証が必要な場合は、\*認証を使用\*チェックボックスを有効にして、リポジトリのクレデンシャルを入力します。
7. 「\* 接続」を選択します。

## 結果

リポジトリが接続されました。[アーティファクトリポジトリ\*]セクションで'リポジトリに[接続済み]ステータスが表示されるはずです

## アーティファクトリポジトリの接続を解除します

不要になったアーティファクトリポジトリへの接続を削除できます

## 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [接続 (Connections \*)] タブを選択します。
3. [アーティファクトリポジトリ\*]セクションで'右上のメニューを選択します
4. 「切断」を選択します。
5. [はい]を選択し'アーティファクト・リポジトリを切断します\*

## 結果

リポジトリが切断されました。[アーティファクトリポジトリ\*]セクションで'リポジトリに[接続済み]ステータスが表示されるはずですが

詳細については、こちらをご覧ください

- ["ソフトウェアパッケージを管理します"](#)

## ソフトウェアパッケージを管理します

ネットアップでは、NetApp Support Siteからダウンロード可能なソフトウェアパッケージを使用して、Astra Control Center向けの機能を追加しています。Dockerとアーティファクトのリポジトリを接続したら、パッケージをアップロードしてインポートし、この機能をAstra Control Centerに追加できます。CLIまたはAstra Control CenterのWeb UIを使用して、ソフトウェアパッケージを管理できます。

必要なもの

- Astra Control Center をインストールした Kubernetes クラスター
- ソフトウェアパッケージイメージを格納するために接続されたDockerイメージリポジトリ。詳細については、[を参照してください "リポジトリ接続を管理します"](#)。
- ソフトウェアパッケージのバイナリやアーティファクトを保持するための、接続されたアーティファクトリポジトリ。詳細については、[を参照してください "リポジトリ接続を管理します"](#)。
- NetApp Support Siteから提供されるソフトウェアパッケージ

## ソフトウェアパッケージのイメージをリポジトリにアップロードします

Astra Control Centerは、接続されたリポジトリ内のパッケージイメージとアーティファクトを参照します。CLIを使用して、リポジトリにイメージとアーティファクトをアップロードできます。

手順

1. NetApp Support Site からソフトウェアパッケージをダウンロードし、を搭載したマシンに保存します  
kubectl ユーティリティがインストールされました
2. 圧縮パッケージファイルを展開し、ディレクトリをAstra Controlバンドルファイルの場所に変更します（例：acc.manifest.yaml）。
3. パッケージイメージをDockerリポジトリにプッシュします。次の置換を行います。
  - bundle\_fileをAstra Controlバンドルファイルの名前に置き換えます（例：acc.manifest.yaml）。
  - my\_registryをDockerリポジトリのURLに置き換えます。
  - my\_registry\_userをユーザー名に置き換えます。
  - my\_registry\_tokenをレジストリの認証済みトークンに置き換えます。

```
kubectl astra packages push-images -m BUNDLE_FILE -r MY_REGISTRY -u MY_REGISTRY_USER -p MY_REGISTRY_TOKEN
```

4. パッケージにアーティファクトがある場合は'アーティファクトをアーティファクトリポジトリにコピーしますbundle\_fileをAstra Controlバンドルファイルの名前に置き換え'network\_locationをネットワークロケーションに置き換えて'アーティファクトファイル'を次の場所にコピーします

```
kubectl astra packages copy-artifacts -m BUNDLE_FILE -n NETWORK_LOCATION
```

## ソフトウェアパッケージを追加します

Astra Control Centerバンドルファイルを使用して、ソフトウェアパッケージをインポートできます。これにより、パッケージがインストールされ、Astra Control Centerで使えるようになります。

### Astra Control Web UIを使用してソフトウェアパッケージを追加

Astra Control Center Web UIを使用して、接続されたリポジトリにアップロードされたソフトウェアパッケージを追加できます。

#### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [パッケージ]タブを選択します。
3. [\*追加 (Add \*)] ボタンを選択します。
4. ファイル選択ダイアログで、アップロードアイコンを選択します。
5. で、Astra Controlバンドルファイルを選択します。 .yaml 形式を指定して、アップロードします。
6. 「\* 追加」を選択します。

#### 結果

バンドルファイルが有効で、パッケージイメージとアーティファクトが接続されているリポジトリにある場合、パッケージはAstra Control Centerに追加されます。[ステータス\*]列のステータスが[使用可能\*]に変わったら、パッケージを使用できます。パッケージのステータスにカーソルを合わせると、詳細を確認できます。



リポジトリ内にパッケージのイメージまたはアーティファクトが1つでも見つからない場合は、そのパッケージのエラーメッセージが表示されます

### CLIを使用してソフトウェアパッケージを追加します

CLIを使用して、接続されたリポジトリにアップロードしたソフトウェアパッケージをインポートできます。そのためには、最初にAstra Control CenterのアカウントIDとAPIトークンを記録する必要があります。

#### 手順

1. Webブラウザを使用して、Astra Control Center Web UIにログインします。
2. ダッシュボードの右上にあるユーザアイコンを選択します。
3. [API access\*]を選択します。
4. 画面上部のアカウントIDをメモします。
5. [APIトークンの生成]を選択します。
6. 表示されたダイアログで、\* APIトークンの生成\*を選択します。
7. 生成されたトークンをメモし、\*閉じる\*を選択します。CLIで、ディレクトリをの場所に変更します  
.yaml 展開されたパッケージの内容に含まれるバンドルファイル。

8. バンドルファイルを使用してパッケージをインポートし、次のように置き換えます。
- bundle\_fileをAstra Controlバンドルファイルの名前に置き換えます。
  - serverをAstra ControlインスタンスのDNS名に置き換えます。
  - account\_IDとtokenは、以前に記録したアカウントIDとAPIトークンに置き換えてください。

```
kubectl astra packages import -m BUNDLE_FILE -u SERVER -a ACCOUNT_ID  
-k TOKEN
```

## 結果

バンドルファイルが有効で、パッケージイメージとアーティファクトが接続されているリポジトリにある場合、パッケージはAstra Control Centerに追加されます。



リポジトリ内にパッケージのイメージまたはアーティファクトが1つでも見つからない場合は、そのパッケージのエラーメッセージが表示されます

## ソフトウェアパッケージを削除します

Astra Control Center Web UIを使用して、Astra Control Centerに以前にインポートしたソフトウェアパッケージを削除できます。

### 手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「\* アカウント \*」を選択します。
2. [パッケージ]タブを選択します。

このページには、インストールされているパッケージとそのステータスのリストが表示されます。

3. パッケージの\*アクション\*列で、アクションメニューを開きます。
4. 「\* 削除」を選択します。

### 結果

パッケージはAstra Control Centerから削除されますが、パッケージのイメージとアーティファクトはリポジトリに残ります。

## 詳細については、こちらをご覧ください

- ["リポジトリ接続を管理します"](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。